

島田正治

コパンの遺跡は、メキシコの隣の国グアテマラ国境から少しオンジュラス国内に入ったところにある。ここチャバラからはグアダハラ市、メキシコ市、そしてグアテマラ市と飛行機を乗りついで行く。同市で一泊、ホテルハワードジョンソンに泊まる。ここは毎度常宿にしているのですでに顔見知りである。気持ちよく迎えてくれた。部屋の番号も以前と同じだった。コパンの遺跡に行きたいがと言うと、あれこれ調べてくれて、明朝、五時に出る一等バスがある。これはグアテマラとオンジュラスの国境を越える際手続きがめんどろではないからということでこれに決めた。朝は四時起きでバスのターミナルへタクシーで行った。あたりはまだまっ暗、すでに十名近くの人たちが出発を待っていた。

\*-----\*

定刻にバスは発車、ほぼ満員になる。市中を西へ、しかし外の風景はまるっきり見えない。やがて七時過ぎて夜が明けてきた。ほとんど平野はなく山また山、村や町もない。国境を越えるあたりはかなり高い山々が連なる。カーブ多く、まことに危険きわまりない。五時間乗りづめで、やがて国境のフロリドに着いた。地図には名前が出ているが人家とてない。まことに殺風景だ。ここで全員バスを降りて、出国と入国の手続きをする。いくらのお金を払うが、許可通行税のようなものだ。パスポートに押すハンコの手数料と思えばよい。百米ほど先に、オンジュラス側ですでにバスは待っていた。ゆっくり歩いて行く。

国境から三十分ほどでバスはコパンに着いた。ごくひとにぎりの小さな村、どこに遺跡があるのだろう。村は坂が多い。細い椰子の木が天にむかって伸びている。赤茶けた屋根、白壁がきれいだ。標高五百米、やや湿気がある。太陽も強く、完全に南国の風景がただよう。どこを見てもバナナが育っている。四方を見渡すと、三方、坂ばかり、驚くばかりの急坂で、その上の方に住居がある。自動三輪車がタクシー代わりに縦横に走りまくる。値段も安い。しかし、どう見ても上り下りを拒否するような急勾配の坂道もあった。車は通らず、人のみがくの字型に歩いてくる。わたしはこの急坂の見える風景が気に入ってその坂の下で描いた。

村のソカロ広場の角のホテルに泊まることにした。車の往来がはげしくてうるさいから中庭に面した暗い窓のない部屋をとった。

\*-----\*

翌日一日は村の中を散策した。そして次の日、コパン遺跡の見学に行った。入り口に立て札があり、日本の国旗の「日の丸」を刻み込んだフレームがあった。日本語で日本のジャイカの資金援助を得て、この遺跡の修復がなされましたと書かれていた。

コパンはマヤ文明の数多くある遺跡の代表的なひとつで、広い敷地内にピラミッド、神殿、スポーツ場などの一大都市が建設された。広場には立像の神官、そこに刻まれたマヤの絵文字が残っていて、ほどこされた色彩もうすくある。ピラミッドの階段にはこのマヤ文字が全段刻された。最近になって、マヤの文字が解明、読解されたと聞いたがほんとうかどうか。

ピラミッドの上に樹齢四百年という巨木がそのまま立っていて、その太い根はその石と石との間に深くくい込んでいる。もし、一旦この木が倒れたとしたらどうなるか、木もろともにピラミッドは崩壊してしまうにちがいない。そして土と化し、埋ってしまう。

ビルディングの三階ぐらいまでであろうと思う垂直の石の断崖絶壁は人工によって築造された。とても登れるものではなく、日本の城のその比ではない。外敵の侵入を防ぐ砦になった。

(つづく)

ご意見・ご感想は  
右上メールボタンよりお送りください。